

Aイマスクはいかがですか？

わたしの言葉はわたしそのもの

4年 M・Mさん

Aイという言葉のひびきは、スマートで、かわいいけれど、人工知能と言われたら、冷たくてこわく感じる。

リナが公園で出会ったピエロ。サーカスなどでは、ふざけて楽しい人だけれど、よく見ると、その顔には、なみだがかかっていたりして、ピエロもまた、悲しくて冷たく感じる。

そんなピエロに、「科学の力が、なやめるあなたをお助けします。」と言われても、わたしなら立ち止まらないだろう。

でも、リナは大きな声を出すのが苦手なことを気にしていたから、「ハキハキAイマスク」をもらってしまった。最初は小さな声をハキハキした声に変えてくれて良かったけれど、だんだん心の中で思ったことが、声に出てしまう。そして、その声は、強くてきつい言い方になってしまった。

Aイマスクから出る声は、使っている人の言葉ではなくて、人工知能が作った言葉になってしまう。そして、便利なAイマスクを使い続けていると、人々が自分で考えて決定することは、無意識のうちに減少してしまう。それでは、まるで人間が人工知能に支配された未来がやって来るようで、とてもこわい。だから、もし本当にAイマスクがあったとしても、わたしは使いたくない。

夏南人は、Aイマスクを使っていた大久保先生と相談して、マスクをはずして、マスクが言ってくれたのと同じような言葉を、自分で考えて、クラスの人々をばげますことを選んだ。それならば、その言葉は自分の言葉となつて、お母さんの応援のような、人の心の温かさを感じることができる言葉となるだろう。

人間とAイと一緒に発展していく明るい未来は、もう、すぐそこまで来ている。でも、わたしの言葉は、わたしが声にしたもの。つまり、わたしそのものなのだから、Aイにたよりすぎないで、自分で考えて、自分で決定する。そんな人間らしさを大事にしたいと思う。